

徳島家庭裁判所委員会（第1回）議事概要

1 開催日時

11月6日（木）午後2時30分～午後4時50分

2 開催場所

徳島地方・家庭裁判所大会議室

3 出席者

浅野義正委員，伊東秀子委員，鹿島久義委員，鎌田啓三委員，木村清志委員，
佐々木 茂委員，前田美代子委員，松村通治委員，南 敏文委員，幸田文一委
員

4 議事

(1) 所長あいさつ

(2) 委員自己紹介

(3) 委員長の選任

南委員を選任

(4) 委員長職務代理者の指名

鹿島委員を指名

(5) 部会の設置

設置しない。

(6) 委員会の開催回数

年2回とする。

(7) 委員会の公開

一般公開はしない。報道機関に対しては，冒頭部分（所長のあいさつま
で）のみ公開する。

(8) 議事概要の作成及び公開

発言者は，匿名にしたうえで議事概要を作成し，公開する。

(9) 委員会の招集

委員会は、委員長が招集する。

5 説明事項

鹿島委員、首席書記官及び次席家裁調査官から、「家庭裁判所の役割について」「当庁の実情について」を説明

6 意見交換及び次回開催テーマについて

(意見交換)

各委員から次回開催テーマに向けて、次のような意見が出された。

- 近年、事件数が右肩上がり増加傾向にあり、それに合わせた裁判所職員の人員配置が必要だと思うが、長い間変わっていないのだとしたら、そのことが裁判や調停の長期化に関係しているのではないか。
- 行政においては、開かれた行政、開かれた教育行政ということが言われ、オープンにした形で説明責任を果たさなければならなくなっているが、ただ裁判所にもそういう説明責任を果たすということがなじむのかどうか問題かと思う。裁判所と国民の間には少し距離があるように思われる。裁判所を積極的に活用したいと考えている人に、どういった方法でアピールしていくのが課題でないか。
- 裁判所と国民の間には、親しみさの点で若干距離があると思う。この距離を縮めるのに、例えば、桜で有名な造幣局の通り抜けのようなことや、職員の書いた絵を展示したり、バザーをやってみたりしたら、国民ももっと親しみを持つのではないか。
- 衆議院議員選挙と同時に行われる最高裁裁判官の国民審査に関しても、国民の目からどなたも知らない方々が多い。最近新聞などで紹介されてはいたが、最高裁裁判官のことを知らな過ぎるように思う。
- 原則として、電話による相談は、行っていないとのことだが、やむを得ず電話による相談を行った事例があれば、そこら辺の相談件数もきちんと示すように

したらどうか。

○最近、きちんと自分の意見を言える学生が少なくなってきたように思う。将来、裁判員制度が導入されたとき、きちんと裁判員の仕事をこなせるのか、心配するところがある。

(次回開催テーマ)

より利用しやすい、身近な家庭裁判所として考えられる方策についてをテーマとし、次回期日は2月9日又は10日を予定。